

いわき市教育委員会

研修だより

礎

研修だより 第14号

平成26年 3月10日

発行所

いわき市教育委員会

発行責任者

教育長 吉田 尚



「教職員の資質向上と OJT」

いわき市総合教育センター

所長 馬淵 章

全国的に教職員の大量退職の時期を迎えますが、本市においても、今後、同様の傾向が見込まれています。ベテランの教職員が大量に学校を去っていくことから、これまで培ってきた学校文化の継承者である若い教職員の育成と同時に、今後の学校運営の中心的な役割を果たす中堅層のさらなる資質向上を図ることが急務となります。そのためには、これまで以上に校内研修の充実を図ることはもちろんですが、校内に OJT の機能を取り入れることが必要ではないでしょうか。

OJT は、日常の業務を遂行する中で、意図的・計画的・継続的に資質能力を高めていく教育体系のことです。学校においては、教職員が協働の取り組みを通して、互いに支え合い成長し合うことも OJT であり、分掌主任や学年・教科主任等も指導者（以下、メンターと言う）として、個々の教職員（以下、メンバーと言う）を指導する役割を担い、学校の組織力向上にも結びつくことが期待できます。では、実際にどのように進めていくか、いくつかのポイントを述べたいと思います。

1 点目は、メンバーの OJT の目標を共有化し、意図的・計画的に取り組むことです。目標設定に際しては、担当業務上必要とされる能力だけでなく、将来的に必要とされる能力等も踏まえることが大切になります。そして、「いつ」「だれが」「だれに」「どのような場面で」等を検討し、管理職

を含めたメンターの役割を明確にすることです。まさに、現在各校で行っている目標管理制度を活用できるのではないかと思います。

2 点目は、メンバーに場や機会を与え、仕事を任せて育てることです。一人一人の特性や意向、将来の育成を考慮し、意図的に校務を割り当て、校務に関する潜在的な資質能力を開発・発揮させることです。「立場が人を成長させる」という言葉があるように、「適所」で「適材」を育てるという考えも大切だと思います。

3 点目は、機会をとらえた指導で育てることです。適切な場面で適切な指導ができるよう、メンターが指導場面を見逃さず、指導場면을意図的に作り上げることが大切です。具体的な場面としては、意見を求めてきたとき、ミスをして落ち込んだとき、仕事が完結したときなどが考えられますが、校外研修は格好の指導場面です。事前に実施要項を一読しておき、研修に向けての動機付けを行うとともに、研修後は研修内容や得たことの報告を受けるだけでなく、内容や情報を学校全体で共有することが重要なことだと考えます。

学校では、いわゆる同僚性と呼ばれる、日常の中で同僚と学び合う様々な関わりを行ってきました。校内に OJT の機能を取り入れることにより、より意図的・計画的・組織的に関わりを進め、教職員の資質向上を図ってはいかがでしょうか。

平成25年度 いわき市総合教育センター研究調査委員会 研究調査報告

1 研究の概要

研究調査委員会では、平成24、25年度の2年間をかけて日々の授業改善や生徒指導、特別支援教育の充実を目指し、調査・研究を重ねてきました。この間、市内の優れた授業の取材などをもとに指導のあり方を動画や画像にして解説したり、日常の指導に役立つ教材や資料の開発に取り組んだりしてきました。今回、その成果をDVD資料としてまとめ、貸し出しができるようにいたします。また、一部ホームページにも掲載します。市内の先生方が校内研修や授業研究などで本資料を有効活用し指導力の向上に役立てていただければ幸いです。

2 研究のねらいと視点

◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業及び教育活動の具現化を目指して

- ・教科の本質を踏まえた授業や言語活動を取り入れた授業展開のしかた
- ・日常の生徒指導や特別支援教育で役立てられる活用資料等の作成

授業の場面を焦点化し、指導方法について分析を加えるなどして、実際の授業や指導の場面に即して使える資料を開発し、各校が自校化して有効活用できるようにする。

3 資料の活用

- 研究の成果を電子媒体（DVD）に整理・編集し、総合教育センターの図書館資料ライブラリーの一つとして市内小・中学校へ貸し出しを行う。
- 総合教育センターのホームページを検索して必要な教材や資料をダウンロードし、活用できるようにする。→ <http://www.city.iwaki.fukushima.jp>
- 活用の利便性を図るため、案内用のリーフレットを作成し各校に配付する。

国語部会

～ 教室に声を響かせよう ～

1 ねらい

「サイドラインを引く」「吹き出しを書く」など、私たちは、いろいろなパーツを組み合わせて授業を組み立てます。そこには、必ず「授業のねらい」があるはずです。「音読」もその一つです。「音読」は教師も子どもも、気軽に取り組める学習活動です。「音読」から「授業」を変えることで今よりもずっと授業が楽しくなります。

2 内 容

- (1) 音読エクササイズ
声を出すことに慣れ、表現性を高めます。
- (2) ダウト読み
教師の音読の間違ひを見つけます。言葉を大切に読むことができるようになります。
- (3) 「ぼく・わたし読み」
登場人物を「ぼく・わたし」に置き換えて読むことで登場人物の気持ちがつかめます。

(4) たけのこ読み

自分の読みたい段落を決めて読みます。段落のまとまりや意味を意識するようになります。

(5) 暗唱練習

古文特有のリズムに親しみながら、暗唱できるようになります。

3 活用と効果

DVD視聴、活用を考える！

「音読」で「どこを」「どう」読ませるか、ねらいを持ち、授業を組み立てるようになる。

授業が見えるようになり、
授業が変わる！楽しくなる！

算数・数学部会

～思考過程の「共有」と「吟味」～

1 ねらい

数学的な思考力・表現力は合理的・論理的に考えを進めるとともに互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たすものです。最近までの国内での各種調査の結果分析によると、知識・技能の定着については低下傾向は見られませんが、数学的な思考力・表現力に課題が見られます。

このような今日の教育課題を考慮すると、算数・数学の授業において、互いの思考過程での「共有」と「吟味」の活動を大切にし、算数・数学的活動を取り入れた授業を展開していくことが、数学的な思考力・表現力をはぐくむ上で重要であると考え、本研究を進めてきました。



2 内容

以下の2つの内容について重点的に研究を行い、資料としてまとめました。

- (1) 学習意欲を喚起する問題の工夫と提示の工夫
- (2) 思考過程の共有化を図るための工夫

3 活用と効果

(1)については、小学校4年生・5年生、中学校3年生の具体的な事例を集めました。

(2)については、以下の内容についての実践例を動画としてまとめました。

○友達ノートを見合い、説明し合う活動

○思考過程を能動的に共有する活動

○式を読む活動

算数・数学の授業を通して、子どもたちの気持ちに寄り添いながら「問い続ける喜び」を味わわせることが大切です。そのためにも、互いの思考過程の「共有」と「吟味」の活動を大切にし、算数・数学的活動を組み込んだ授業を構築していくことが大切であると考えます。ぜひ、ご活用ください。

社会部会

～導入の工夫と話し合い活動の充実～

1 ねらい

平成20・21年度は地理的分野における導入案の作成、平成22・23年度は授業における話し合い活動のあり方について研究を進めてきました。

そして、平成24年度からは授業の導入や話し合い活動の実際の映像を記録した指導資料を作成しました。先生方が授業を具体的にイメージしやすく編集しましたので、研修等でご活用ください。

2 内容

- (1) 話し合い活動充実のために
→言語力の育成にかかわる学習の充実
- (2) 実践①「自動車をつくる工業」(小5)
→単元を貫く学習課題の設定
- (3) 実践②「モンゴルの襲来と日本」(中1)
→立場を明確にした話し合い
- (4) 導入の工夫
→自動車をつくる工業(小5)

3 活用と効果

社会科の学習で、自分の考えを持ち、それぞれの考えをもとに話し合う活動は、決して新しいものではありません。しかし、実際の授業場面においては、必ずしも話し手と聞き手が相互作用 用的にかかわっているわけではないという課題が見受けられます。

本DVDには、話し合い活動充実のための要素が盛り込まれています。授業で話し合い活動を実践するにあたって、「事前に考えて(準備しておくべきこと)」や「授業を構築する時に検討すべきこと」は何かを確認したり、現在実践している授業を振り返ったりする際にご活用ください。また、授業映像を見て具体的に授業をイメージすることもできます。

「導入の工夫」の映像は、めあて(学習課題)を設定するまでの流れがつかめます。総合教育センターHPの平成20・21年度の研究資料も参照しながらご覧いただくと効果的です。



理科部会

～観察、実験のちょっとしたヒント～

1 ねらい

「理科の授業に苦手意識がある」「観察や実験がなかなかうまくいかない」「観察や実験の準備や手順に悩んでいる」「理科の授業を工夫したい」「準備時間、指導時間が十分確保できない」先生に、授業改善の手助けやヒントとなるDVDを作成しました。また、材料や取り扱い、準備、比較的困難な観察や実験の教材研究の資料としていただくこともねらいとして作成しました。

2 内容

小学校編

- (1) 太陽とかげの観察 (2)ソーラーカーの紹介
(3) 沸騰の実験 (4) 人の誕生を実感する活動

中学校編

- (1) マツかさの観察 (2) 爆鳴を伴う水の化合
(3) テルミット法による還元実験
(4) イカの解剖 (5) 手羽先の腱と筋肉
(6) 放射線の観察

3 活用と効果

小学校編では、身近な材料を使った観察や実験を紹介しています。短時間でヒントが得られるよう、映像に材料や作り方、手順等についてのテロップが入っています。一例として、折り紙と針、紙粘土を使った人の誕生を学習する活動では、ものづくりを通して、具体的な大きさや重さをとることができる効果が得られます。

中学校編では、比較的困難な実験や「トライ」の生物実験等の補助教材として活用いただける映像をDVDに収録しました。実験の「コツ」等をテロップに入れました。一例として、簡易放射線観察器(簡易霧箱)の作り方や操作方法、放射線の飛跡についての映像を収録しています。実験の説明や振り返りに使用できます。

理科の本質は、直接体験から根拠を見いだし、科学的な見方や考え方を構築していくことです。本DVDは、教師の教材研究、児童生徒の理解に支援が必要な場面や振り返りの場面での効果を考えて作成しています。実験の充実、実感を伴った確かな理解ができる理科の授業を生み出すために、ぜひご活用ください。

英語部会

～ 英語の授業に生かせる実践事例集 ～

1 ねらい

平成24年度より、先生方が普段の授業を進める上で、どのようなことに問題点を抱えているのか、またどのように授業を工夫しているのかについて研究を進めてきました。その方法として、いわき市の全英語科教員に、授業を進める上での問題点、工夫している点について、導入・展開・まとめの3段階に分けてアンケートをとりました。その中で、次の問題点が分かりました。

【共通して抱えている問題点（3段階）】

- ①導入における教材選択・場面設定の工夫
②展開における学力差・能力差への対応
③まとめにおける学力差への対応・時間の確保

これらの問題点と工夫している点を比較し、問題点を解決するヒントになる実践を段階ごとに2例選び、普段の授業に生かせるように、解説入りの映像にまとめました。

2 内容

- (1) 導入の段階における指導の工夫
・ICTの活用
・インタラクションの工夫
(2) 展開の段階における指導の工夫
・ドリルの工夫
・定着活動の工夫
(3) まとめ段階における指導の工夫
・まとめ方の工夫
・活動形態の工夫

3 活用と効果

共通して抱えている問題点を解決するために、市内英語科教員6名の実践を段階ごとにDVDに収め、活用できるようにしました。「デジタル教科書を使った有効な提示方法」「かかわり合って定着を図る活動」「要点カード作成やペア学習によるまとめ」等、子どもたちが生き生きと授業に参加している姿を収録しました。それぞれの学校の実態に合わせながら各実践事例を活用することで、さらに授業が改善され、子どもたちの英語力の向上につながるものと期待しています。

生徒指導部会

～生徒指導のスキルアップ1・2・3～

1 ねらい

「子どもたちが落ち着かない」、「クラスのまとまりに欠ける」などの悩みを持つ先生方が、生徒指導のスキルアップをめざすための資料を提供します。

2 内 容

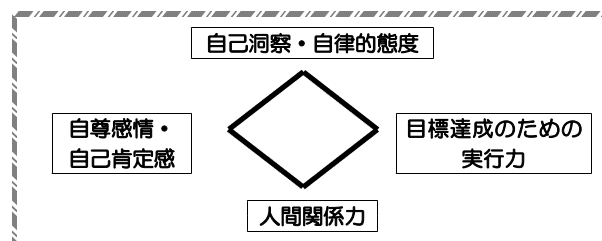
- (1) 生徒指導の4観点をもとに作成した月別の生徒指導重点事項を提案します。
 - 生徒指導カレンダー（小学校版・中学校版）の作成
 - 活用ガイダンス（DVD）
- (2) 指導の振り返りチェックシートとアンケートの活用方法を紹介します。
 - 自己診断ガイダンス（DVD）
- (3) 指導の振り返りの際に使うシート（自己診断ツール）を提供します。

3 活用と効果

次の3つの取り組みにより生徒指導のスキルアップをめざせます。

- (1) 生徒指導や学級経営について、月ごとの、そして1年間の見通しを持ちましょう。
 - DVDの生徒指導カレンダーが参考になります。（活用ガイダンス参照）
- (2) 学期に1度程度、自身の指導を振り返り、その特徴・傾向を把握しましょう。
 - DVDの自己診断ツールを活用できます。（自己診断ガイダンス参照）
- (3) 新たな方針や具体的な方策を立て、指導改善にチャレンジしましょう。
 - ウェブページに紹介中の「指導のポイントと実践事例」が参考になります。

※ 生徒指導の4観点（詳しくはWebで）



特別支援部会

～特別支援学級のアイデアを結集～

1 ねらい

先生方にアンケートを実施した結果、以下3点が課題としてあげられました。

- 1 経験が少なく、校務運営の見通しが持てない
- 2 校務の効率化
- 3 特別支援学級担任間の横のつながりの希薄さ

これらの課題を解決するために、「見通しを持って校務運営の効率化を図る」「教材教具、資料等の共有化」を図るテーマに研修を進めました。

2 内 容

- (1) 特別支援学級担任年間スケジュールの作成
 - 1年間の見通しを持って仕事を進めるための情報の提供
 - 担任や児童生徒のタイプ別にスケジュール情報を細分化
 - 職務に必要なシートや各校のアイデアにリンクし、活用できるようなシステム

- (2) 教材、教具、学習プリント等の共有化

- 教科や領域、教科等を合わせた指導ごとに資料を分類
- 資料を作成した学校名が記載されており、個別に情報を得ることも可能
- 編集して使用できる学習プリント等の掲載

3 活用と効果

「年間スケジュール」、「教材、学習プリント等」の資料は全て、総合教育センターのホームページに掲載します。「情報や資料が欲しい」と思ったら、ぜひご覧いただき、校務や学級経営、学習指導にご活用ください。特に、「教材、学習プリント等」の資料は、通常学級の先生方にも有効に使っていただけるものがたくさんありますので、ぜひご覧ください。

また、資料ごとに、提供いただいた学校名も掲載してあります。「より詳しい情報を得たい、聞いてみたい」と思ったときは、電話等で直接話を聞いてみることをお勧めします。いわき市で共に頑張る先生方の横のつながりを作っていきます。

専門研修で学んだことを子どもに！

いわき市総合教育センターでは、日常の教育実践に直結した研修及び本市における教育課題解決に資する研修として、専門研修を開設しています。現場のニーズ、授業改善にダイレクトな内容・講師による研修内容が、最終的に子どもたちの姿に表れることを目標としています。

研修で学んだことを、教育現場にどう生かしているか、2名の先生にお話を伺いました。

「授業改善講座」を受講して

四倉小学校 菅野 保子 先生

講座の概要

本年度は、授業づくりと学級経営は表裏一体との考えから、「授業改善講座」(8/22)は、特別活動について、「よりよい人間関係・生活・授業をつくる学校・教師」～望ましい集団活動を生かす学級経営力の視点から～を演題に、國學院大學教授で前教科調査官の宮川八岐先生をお迎えして開催しました。実際の学級会の映像に解説を加えての具体的なご指導をいただきました。

○ 学級活動充実への思い

～子どもが育つ学級経営を心がける上で、これまで大切にしてきたことは何ですか？～

子どもは、やってみて初めて感じ、気づき、またやってみたい、今度はこうしてみたいと思いを高めることを実感してきました。その中で、子どもたちはお互いに一人一人が存在を感じ、自分に自信を持って育っていくことが、明るく、温かな学級経営には欠かせないと意識してきました。

○ 目的を持って研修へ臨む

～どんな目的を持って、申し込みましたか？～

特別活動では、経験させ、任せることを、大事にしてきましたが、係活動や話し合い活動において、教師はどのタイミングでどんな方法でかわればいいのか、目指したい学級、子どもの姿をどう伝えればいいのかまだまだ方向性を見直したい思いがありました。今回、学習指導要領に携わ

り、数多くの実践に携わっている宮川先生のご指導をこれからの学級経営のヒントにしたいという思いから、申し込みました。

○ 受講して得た、納得

～講座で、印象深かったことは何ですか？～

実際の学級会の様子を、宮川先生の具体的な解説を交えて映像で見られたことです。教師の位置や見取る視点が明確になり、目から鱗が落ちる体験となりました。

また、本年度各学校に配付された「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」(教員向けリーフレット、講師宮川先生も作成に携わった)の紹介があり、改めて基本を確認することができました。このリーフレットは、学校に帰ってから、職員に印刷して配りました。

○ 研修で学んだことを、子どもたちの日常に生かしたい

～受講後、学級で生かしている事は何ですか？～

現在4年生を担当しています。まず、係活動と当番活動について見直しました。そして、再度、「みんなが楽しい学級にするには」と方向を示しました。また、子どもとの日々の会話を大事にし、使いたい時間や改善したい点等、思いを取り込み、適時に声をかけています。受講前よりも、柔軟に子どもの思いを後押しできるようになりました。



〈子どもたちの思いが、ミニ集会に〉

最後に、菅野先生からは「子どもの思いの実現、経験の積み重ねを一層大事にしていきたいです」という思いをお話いただきました。

「発達障がい教育講座」を受講して

平第五小学校 北原 由江 先生

講座の概要

「発達障がい教育講座」(7/22)は、教員免許状更新講習の対象講座の一つとして行われました。午前中は、発達障がい疑われる児童生徒が抱きやすい困り感の理解と支援の在り方に関する講義・演習を実施しました。午後は、筑波大学附属小学校の桂聖先生を迎え、国語科における「授業のユニバーサルデザイン化」についてご講義いただきました。

北原先生は、教員免許状更新講習の選択研修として受講されました。どの学級にもいるであろう気になる子どもに対してどのように支援すべきなのか、この講座を通してヒントを得たいとの思いから申し込まれました。

○ 発達障がい疑われる子どもとのかかわり方

午前中の講義において、担任は自分が目指す児童の姿をイメージし、ある程度の枠を設定していること。そして、その枠に収まらない子どもに対して困り感を持ち、悩むという話がありました。心掛けていることは、自分が描いている枠を一回り大きくし、その子どもが収まりやすい環境を作っていくことです。さらに、講義の中にもあった、①生活ルールの明確化、②違いを認め合える関係づくり、③分かりやすい教室環境づくりについても実践しています。これらの支援はとても有効で、子どもが驚くほどよい方向に変化していくことを実感できました。



＜授業のユニバーサルデザイン化に取り組む様子＞

○ 共に学べる授業づくりを目指して

学習指導の面は、自分にとっても課題でした。「楽しくわかる授業」が大切であることは分かっていましたが、障がいを持つ子どもへの配慮がとても足りなかったと反省されています。桂先生が取り組んでおられるユニバーサルデザインをもとにした授業づくりは、しっかりと組織化、理論化されていました。その講義から、今、どんな困り感を持った子どもがいて、その子どもにはどのような学習指導における工夫が必要なのかということ学ばせていただきました。そこで、学級で気になっている子どもに対して、「がんばれ」と励ますだけだったり、授業の目標を低くしたりするのではなく、ユニバーサルデザイン的な考えを取り入れ、授業全体の質を高めながら、「授業における工夫や配慮」「全体指導と個別指導」に取り組もうと工夫しています。その結果、困り感を持った子どもだけでなく、全ての子どもの授業に取り組む姿勢が変わったことを実感できました。これからも、どの子どもにも充実感を味わわせられる授業づくりに取り組んでいきたいと思っています。

平成25年度 全55講座の専門研修を終えて・・・

今年度、本センターでは専門研修として55の講座を実施しました。また、今年度の特徴として、その中の13講座において教員免許状更新講習も始めました。それらの講座を受講された先生方は、自分をさらに高めたい、児童生徒のために新たな知識を取り入れたいなど、共通した目的を持って受講されていました。このコーナーで紹介したお二人の先生方も、受講された講座で得たヒントを所属校の先生方に伝達したり、よりよい学級経営や授業づくりの実践に生かしたりと努めていらっしゃいました。

各講座のエッセンスが日々のおしゃべりや伝達講習、受講された先生方の実践から多くの先生方に広まり、子どもたちに返っていくことを願っています。

次年度も教育課題の解決に向けた有意義な講座運営を目指していききたいと思います。

平成26年度の研修については、これまで同様、平日は午後2時からの実施を基本としています。また、教職員の経験年数やライフステージに応じてキャリアアップが図られるよう、長期的な展望に立って計画をいたしました。研修・講座の新設及び内容の変更は以下の通りです。（詳細は、平成26年度研修計画をご覧ください）

基本研修Ⅰ

- 初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、養護教諭経験者研修Ⅰ・Ⅱは通常通り実施します。
- 養護教諭経験者研修Ⅲは、隔年実施のため、H24・25・26年該当者について実施します。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱは、隔年実施のためH25・26年該当者について実施します。学校栄養職員経験者研修Ⅰ・Ⅲは、隔年実施のためH26年度は実施せず、H27年度に実施します。

基本研修Ⅱ（職能研修）

- 「放射線等に関する教育研修」（新設）
放射線教育指導にあたる教員を対象に、放射線に関する授業のすすめ方について、より具体的に研修を行います。
- 「防災教育研修」（新設）
防災・減災教育推進に向けての講義・協議や、防災をテーマとした学習プログラム体験を通して、子どもへの指導力の向上を図っていきます。実際に防災教育指導にあたる教員が対象となります。
- 「総合的な学習担当研修①・②」
H26年度よりスチューデント・シティ、ファイナンス・パークを基軸としたキャリア教育が開始されます。①では、小学5年、中学2年の担当教員を対象に体験学習プログラムの進め方を研修します。②では、次年度に向けた指導を効果的に行うための研修を実施します。
- 「常勤講師基礎研修」
5月と6月に同じ内容で実施し、どちらかを選択して受講することが可能です。継続の常勤講師は、【校外研修コース】と【校内研修コース】を設定していますが、経験年数の長い常勤講師は、自校に合った教育を進める上で【校内研修コース】を推奨します。

専門研修

○ 教育課題研修

- ・「ミドルリーダー講座」

ミドルリーダーとしての力量を高めるために「コーチング研修・メンタルヘルス研修・組織マネジメント研修」を3年間のサイクルで開設しています。H26年度は、「組織マネジメント研修」を実施します。経験者研修Ⅲ該当者は、悉皆となります。

- ・「コミュニケーション能力向上講座」

「演劇・新聞・読書等」を活用して表現力を磨く講座です。H26年度は、読書等を活用したワークショップ研修を行います。

○ 教科研修

- ・「授業力向上講座Ⅰ（基礎）」

教科の本質に迫る授業の設計についての講義演習を中心とした講座です。

- ・「授業力向上講座Ⅱ（実践）」

模擬授業等を通して授業の展開についての講義・演習を中心とした講座です。

- ・「授業力向上講座Ⅲ（応用）」

思考力・判断力・表現力を高める授業づくりのために、筑波大学附属小・中学校の先生方の実践から各教科に関するより専門的な資質・能力の向上を図るための講座です。

小学校：国語 算数 理科 社会 音楽 体育

（※音楽、体育は隔年実施、H26年度は実施）

中学校：国語 数学 理科 社会 英語

被災地支援講座

- 「ヤングアメリカンズ体験研修」

NPO団体ヤングアメリカンズと共に歌とダンスでショーを作り、他者との関わり合いや自己表現等の大切さを体験から学ぶ2日間の研修です。

教員免許状更新講習

- 夏季休業中に行う講座の中から14講座を選択講習として開設します。